

# 『We Made it!』 創意工夫で社会に貢献

## 株式会社 野田テック

40年以上にわたりベルトクリーナを研究・開発・製造してきた株式会社野田テック。同社製品の開発に対して、1993年に科学技術長官賞、1997年に黄綬褒章が授与され、確かな技術を提供し続けてきました。今回は同社代表取締役社長の野田雄之氏に、創業の歴史、社長就任までの経緯、今後の展望についてお話をお伺いしました。



### 株式会社 野田テック

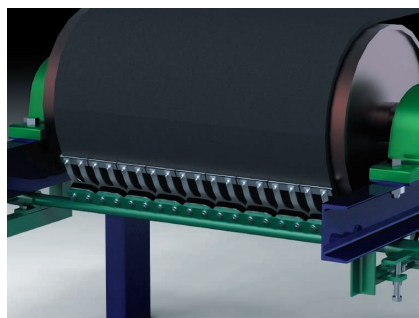
代表取締役社長：野田 雄之 氏  
 本 社：大阪府吹田市南金田 2 丁目 16-14  
 創 業：1968 年（昭和 43 年）  
 従業員数：35 名  
 事業内容：ベルトクリーナ製造販売  
 URL：<http://www.nodatec.co.jp>



本社外観（吹田市）

#### — 工場の片隅からの創業

当社は私の父、野田實が創業しました。父はもともと、電気機器メーカーに勤めていましたが、1968年に、一念発起して独立起業しました。当初は取引のあった会社の片隅を間借りして、配電盤の製作や現地への据付などの事業を始めたと聞いています。あるとき、とある鉄鋼メーカーから、ベルトクリーナ製作の話をもらったのが、ベルトクリーナメーカーになるきっかけでした。



同社のベルトクリーナ

間借りしていた場所では、ベルトクリーナの製造はできないため、東大阪へ拠点を移して鋼材を切ったり、溶接したりの製造業が始まりました。当時、中学生だった私は、学校が休みの度に手伝いに行き、鉄を切ったり、サンダーで面取りの仕事をしました。注文が増えるにつれ、東大阪の作業所から

吹田の工場、そして伊丹工場へと製造拠点が移り、ベルトクリーナの量産化が整っていきました。

#### — 2度の入社と社長就任

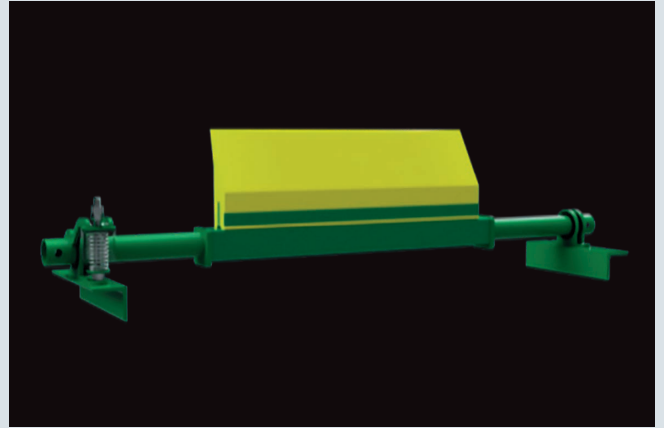
私自身は、社会人になってからはコンピューター関連の仕事に就き、20歳代後半にソフトウェア・ハウスの会社を起業し、大手電機メーカーの生産技術の仕事などをこなしていましたが、なんでもコンピューター化される世の中の流れに疑問を抱いた事や、チェルノブイリ原発事故の事等が引き金となって、家族と共に京都の北山に移住して、木工や木造建築の修行に身を置きました。

数年経って、北山で息子が通っていた小学校が、ついに児童数1名になってしまう事から、隣地区の学校に統合される事が決まって、去就を考えていたある日、父親から手紙が届きました。

その内容は、とても堅苦しい文面で、伊丹にある工場を岡山へ移転するので力を貸して欲しいというものでした。当時、京都でとても魅力的な誘致があったので、気持ちは固まりかけていたのですが、それでも、一度下見に訪れた岡山でとても良い場所と巡り会ったことから、5年間で新工場を軌道に乗せるという約束で入社しま

## 岡山工場

1991年に、岡山県苫田郡鏡野町に施工し、以来、新製品開発拠点及び製造拠点として稼働。日々、社長が新製品開発に取り組み、これまでに多数の製品を世に送り出してきた。



した。父は、一旦入社させればしめたものと思っていたようですが、私はちょうど5年で予定通り退職して、一度目の任期を満了しました。

退職後は、新天地岡山で職業訓練校の建築科に通ったり、人脈を増やす事に奔走し、建築業を起業しました。天然素材と伝統工法にこだわった事業内容で、主に古民家を生まれ変わらせるのが得意としていました。最終的には江戸末期の建物を改装した自身のショールームを持ち、国土交通省の「大工育成塾」の指導員になったりと、忙しく働いていました。

会社の方は、父から母へと事業が継承されましたが、元来、経理畑の母は製造に関する知識が無いので、色々行き詰まり、経営コンサルタントに立て直しを依頼するということまで事態は悪化し、とうとう母から私へ援助の要請がありました。

流石に母親の頼みは断りきれず、私は2度目の入社をすることになりました。当時、会長職だった父からは、年間の売上げが低迷している中国地区の売上を5倍にしてみろ、と何の根拠も目算もない目標を立てられましたが、とりあえずは中国5県の顧客を片っ端から回る事から始めました。そこで市場の動向、競合他社の製品につ

いて、自社製品の改善点等を顧客からヒアリングし、まずは長年モデルチェンジすらしていない製品の再デザインに取り組み、製造設備の充実と技術力の向上を最優先に考え、最新鋭の加工機を導入しました。ちょうどリーマンショックの逆風が吹き荒れていましたが、逆に安価に設備投資する事ができました。

2009年に社長に就任しましたが、その後も工作機械を次々と導入し、それまで外注に頼っていた体制から、ほとんどの部品の内製化に取り組みました。その結果、製造コストを抑えることができたのと、在庫量も大幅に減らすことができました。

若い頃に、大手電機メーカーの生産技術研究所で仕事をした経験や、2004年に木工製品でグッドデザイン賞を獲得したプロダクトデザインの経験など、過去のさまざまな経験値やら知識が詰まった抽斗が現在の製品開発の原動力になり、3Dプリンタやマシンングセンタを駆使して、常に新しい製品の開発に取り組んでいます。

### — 後継者の育成と今後の展望

私が社長に就任してから、約15年が経ちましたが、その間に製品開発ば

かりではなく、人事評価制度、ISO、5S活動など、以前は行き当たりばったりの事システム化し、社員のモチベーションを向上させる事に注力しました。中でも5S活動は、今年から5S委員会を中心に社内コンペティションを開催中です。将来的には、技能オリンピックのように互いに技術を高められるようなイベントも取り入れて、社内全体の技術力の向上と改善活動を活発化させたいと思っています。

その後の課題としては、事業承継です。幸い私の長男が、現在取締役専務として私をサポートしてくれているうえ、その次の後継者候補の甥も営業職で修行を積んでいる最中なので、割とスムーズにいきそうです。後2年程で交代が叶えば、その後、私は研究室にこもって製品開発と生産技術開発に専念します。現在はB to Bの製品のみ生産していますが、世界中の皆様の目に触れるB to Cの製品も含めて、より良い製品を世に送り出したいと思っています。

— 貴重なお話をいただき、  
ありがとうございました。